

第2章 南国市を取り巻く状況

【1】南国市の概況

本市は高知県の中央部に位置し、地理的条件に恵まれた県下第二の都市です。

古から人が生活を営むのに適した場所であり、県内でも有数の遺跡の宝庫です。代表的なものとして、紀貫之も赴任した土佐国衙跡、戦国時代の長宗我部氏の居城であった岡豊城跡などをあげることができ、長らく土佐の政治と文化の中心地でした。

また近年では、四国横断自動車道南国インターチェンジ、高知龍馬空港を有し、高知新港に隣接した高速交通体系の拠点にあり、広域交流ネットワークが形成されています。

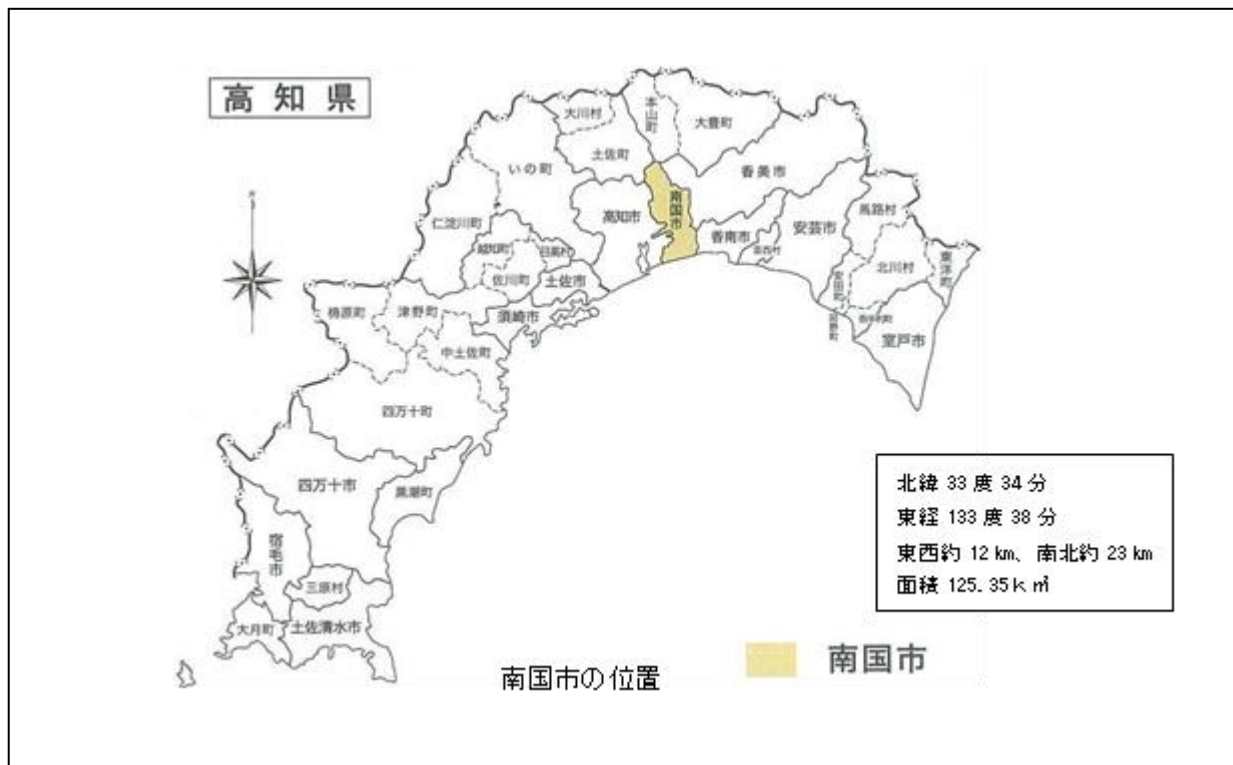
物部川と国分川に育まれた肥沃な香長平野と温暖な気候に恵まれ、早場米の産地として知られています。ピーマン、シシトウなど施設園芸のほか生産性の高い作物も効率よく出荷し、シェア拡大に努めています。本市特産の四方竹なども有名です。

一方で、高度情報化対応の研究開発、先端技術など高次産業業務機能を集積した南国オフィスパークなどがあり、産業の拠点としての機能も有しています。

さらに、高知大学医学部・農学部のキャンパスも立地し、学園都市としての機能も有しています。

外国からの留学生や技術研修生も多く、国際交流もすすめられています。

本市の優れた特性を生かし、「副県都南国市」にふさわしい新しい「まちづくり」に挑戦している、活力のあるまちです。



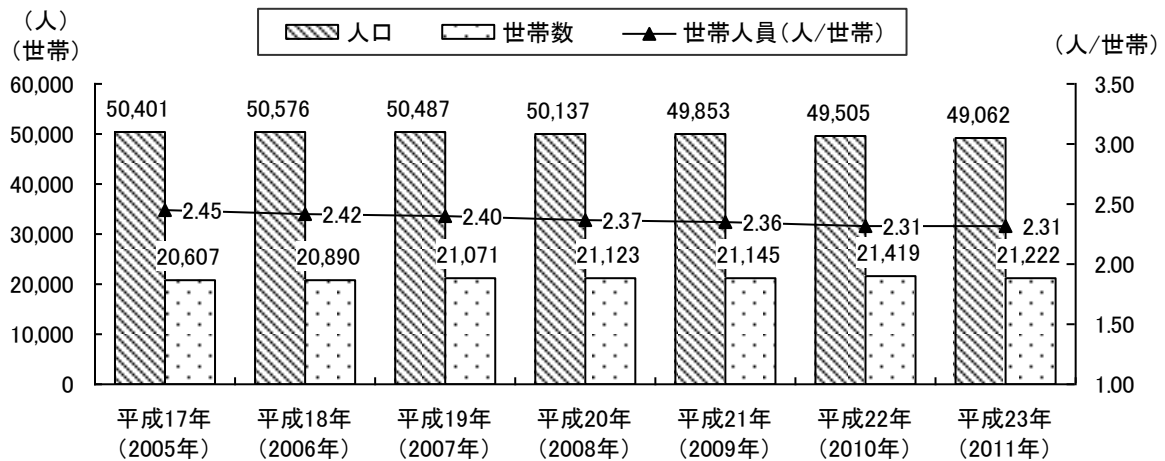
【2】人口・世帯数の状況

1. 人口・世帯数の推移

本市の人口は、平成22年3月末現在およそ4万9千人、世帯数は2万1千世帯あまりとなっています。1世帯当たりの人口数を示す「世帯人員」は、平成17年の2.45人/世帯から2.31人/世帯へと小家族化傾向にあります。

これは近年、人口が減少傾向で推移している一方で、世帯数は増加傾向にあることが要因となっています。

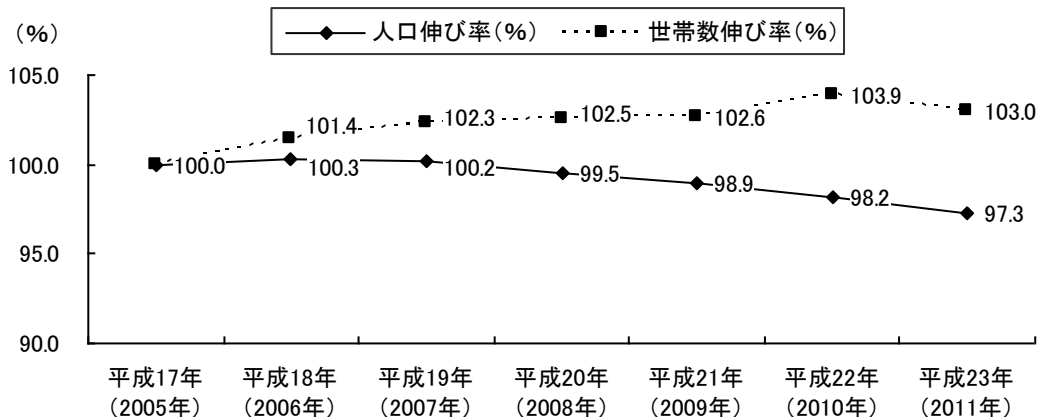
■人口・世帯数の推移



	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)	平成19年 (2007年)	平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)
人口	50,401	50,576	50,487	50,137	49,853	49,505	49,062
世帯数	20,607	20,890	21,071	21,123	21,145	21,419	21,222
世帯人員(人/世帯)	2.45	2.42	2.40	2.37	2.36	2.31	2.31
参考/外国人登録者数	313	315	297	278	269	270	240

注:外国人登録者数は「人口」数値には含まれていない
資料:住民基本台帳 各年3月末現在

■平成17年を100とした場合の人口・世帯数の伸び率(%)



資料:住民基本台帳 各年3月末現在

2. 人口動態

人口の動きである「人口動態」をみると、出生、死亡からみる「自然動態」は近年マイナスを示しています。つまり死亡人数が出生人数を上回っている状態にあります。また転入、転出からみる「社会動態」も同様に、転出が転入を上回りマイナスとなっています。

平成 22 年では、自然動態がマイナス 201 人、社会動態がマイナス 251 人と社会減少が多く、合計 452 人の人口減少となっています。

■人口動態の推移（人）

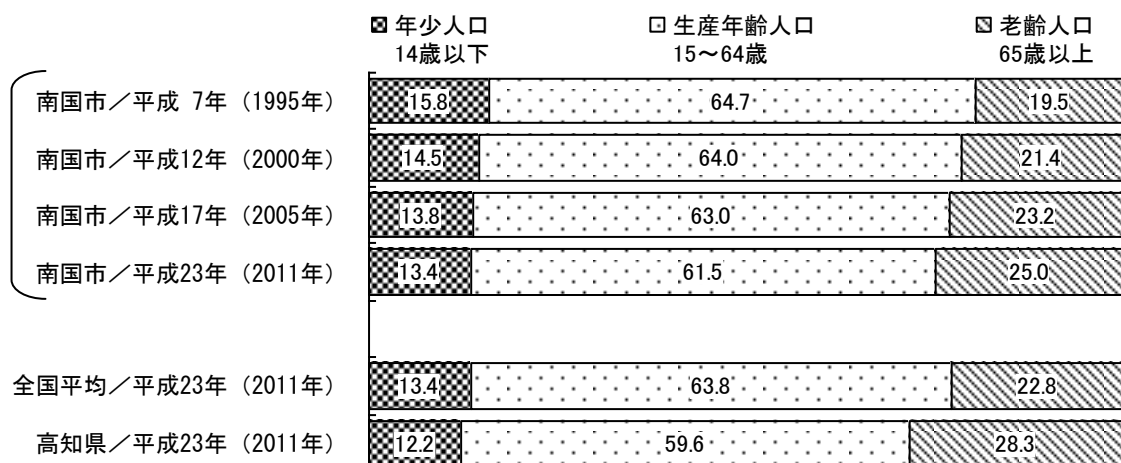
	自然動態(c)		社会動態(f)		人口動態(g)	
	出生者数(a)	死亡者数(b)	転入者数(d)	転出者数(e)		
平成17年(2005年)	460	516	120	2,449	2,329	64
平成18年(2006年)	455	551	21	2,405	2,384	-75
平成19年(2007年)	451	595	-194	2,137	2,331	-338
平成20年(2008年)	464	551	-198	2,012	2,210	-285
平成21年(2009年)	386	528	-203	2,000	2,203	-345
平成22年(2010年)	363	564	-251	1,824	2,075	-452

注：(c)=(a)-(b)、(f)=(d)-(e)、(g)=(c)+(f)
資料：住民基本台帳 各年 3 月末現在

3. 年齢別人口の推移

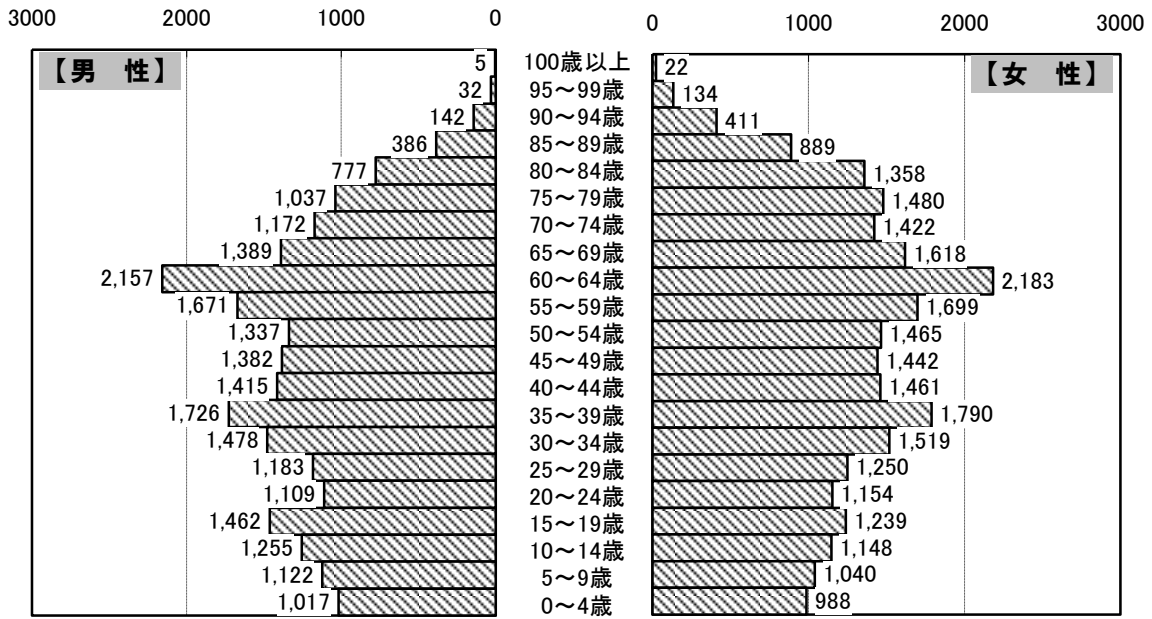
本市の年齢 3 区分別人口構成をみると、「年少人口比（14 歳以下）」は、緩やかな減少で推移していますが、一方で、「高齢人口（65 歳以上）」は増加傾向を示しています。本市においても少子高齢化が進行していることがうかがえます。しかし、高知県との比較では、年少人口の割合が高く、高齢人口の割合が低いことから、県内では比較的活力度の高いまちであることがわかります。

■年齢 3 区分別人口構成比（%）



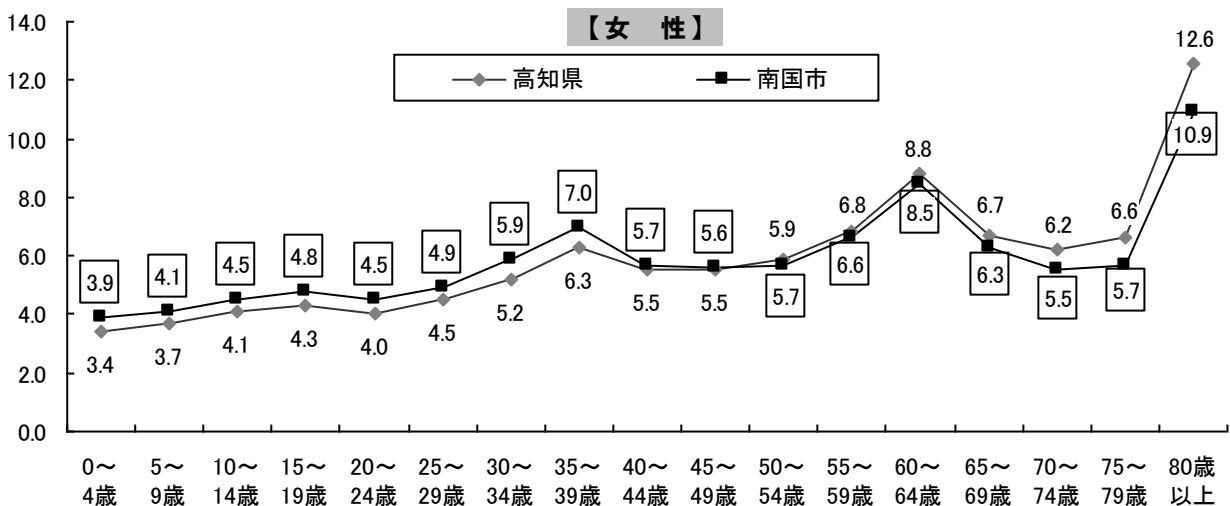
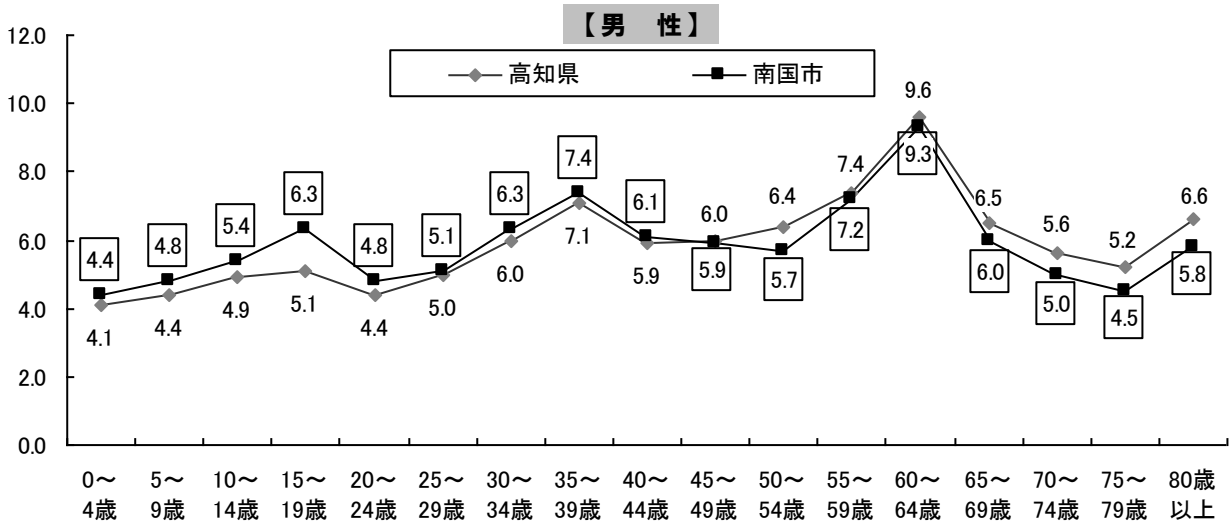
資料：国勢調査(但し、平成 23 年は住民基本台帳)

■参考/南国市 性・年齢別5歳階級人口(人)



資料:住民基本台帳 平成23年3月末現在

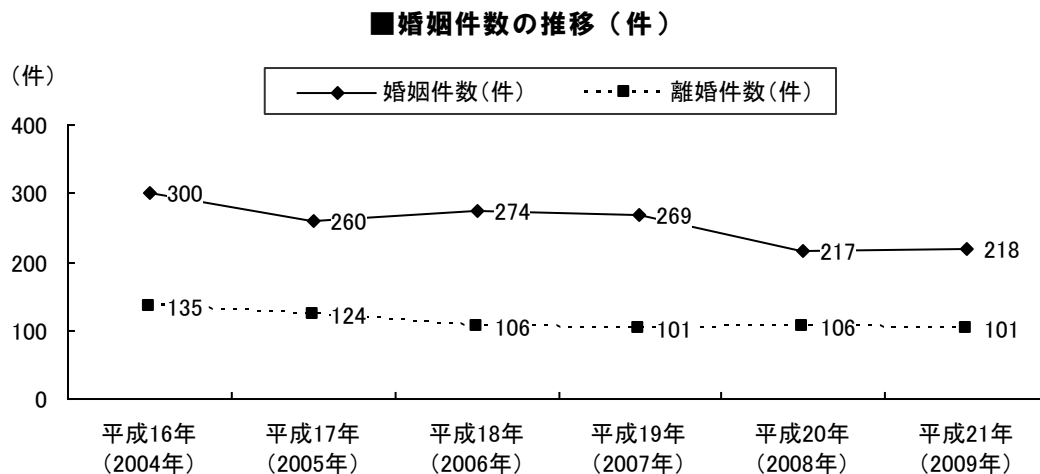
■参考/年齢別5歳階級人口構成比(%) 高知県との比較



資料:住民基本台帳 平成23年3月末現在

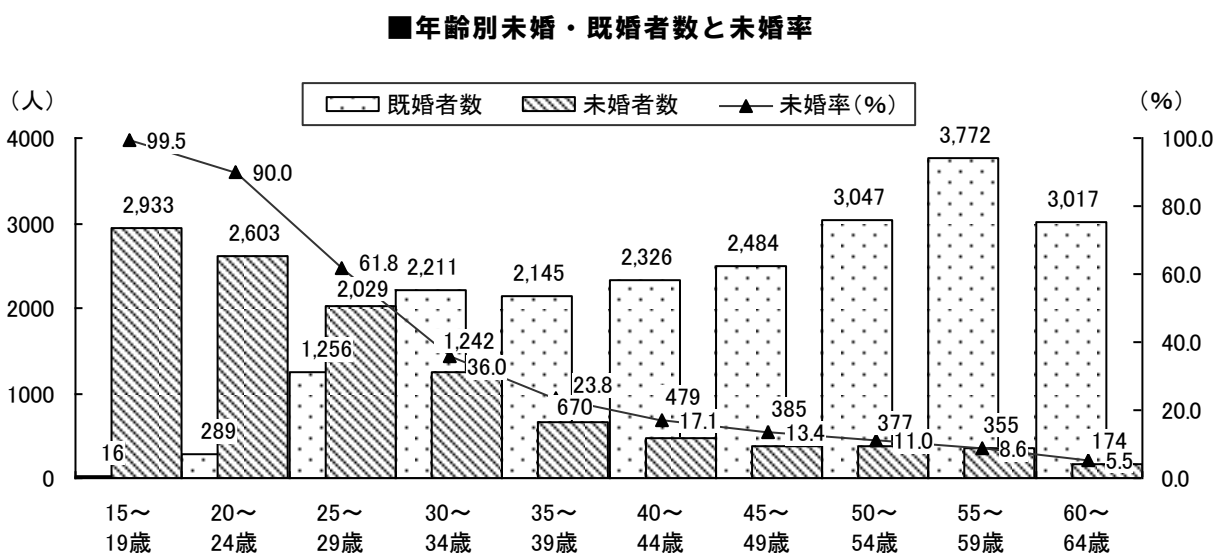
4. 婚姻件数等の推移

本市の婚姻件数は、近年は年間おおむね 270 件程度で推移していましたが、平成 20 年には 217 件に減少しています。



資料：人口動態統計

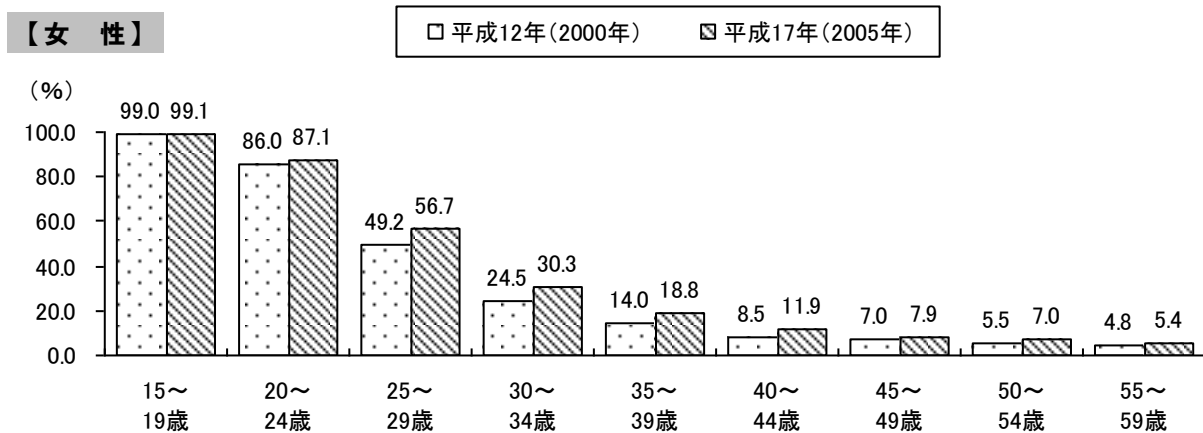
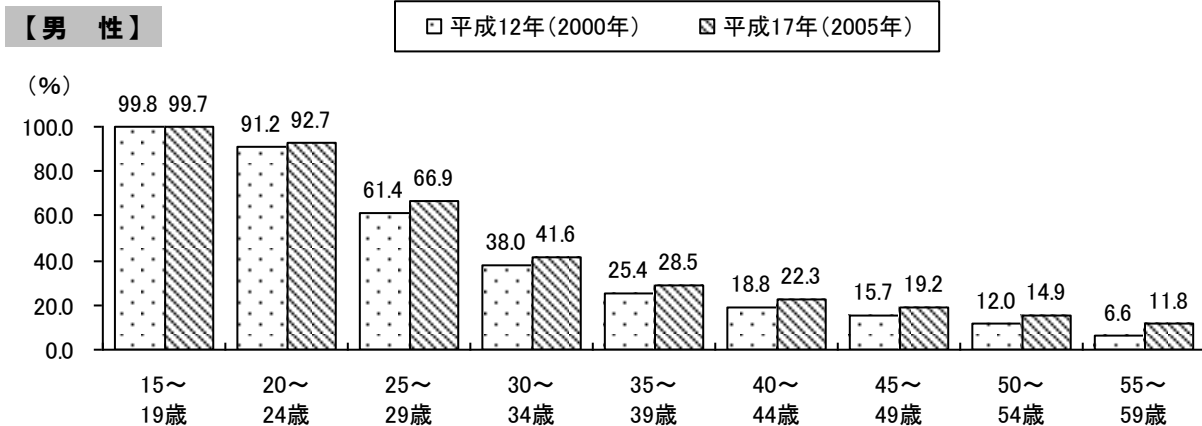
年齢別の未既婚者数をみると、20 歳代後半では 61.8%の未婚率が、30～34 歳では 36.0%と、既婚者数と逆転することから、30 歳代前半が婚姻年齢の中心であることがうかがえます。



資料：平成 17 年(2005 年)国勢調査
※離婚、死別は「既婚者数」に含む。

婚姻の中心的年齢層である「30歳代前半」をはじめ、各年齢層で、男女ともに未婚率が増加しています。本市においても、晩婚化が進展している状況にあることがうかがえます。

■未婚率の推移（％）

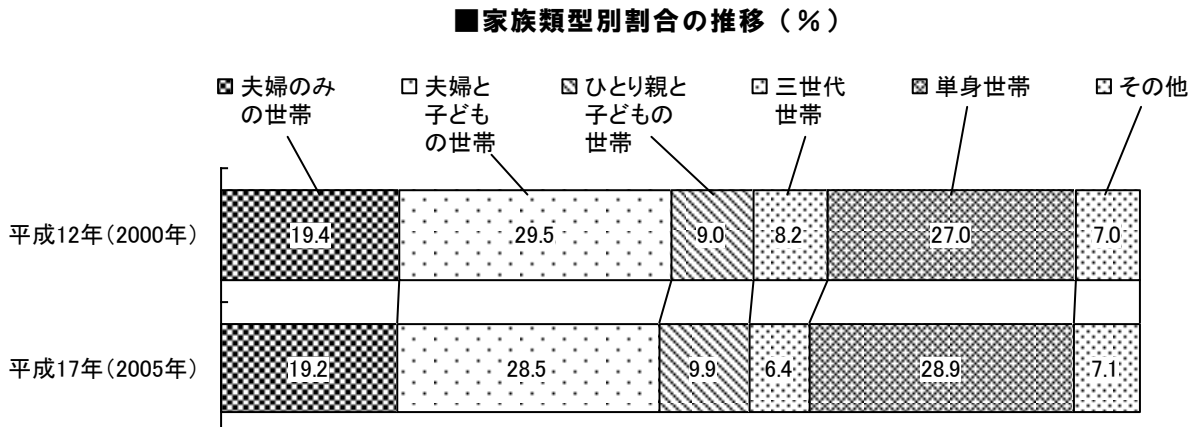


資料：国勢調査

【3】家庭・労働の状況

1. 世帯の状況

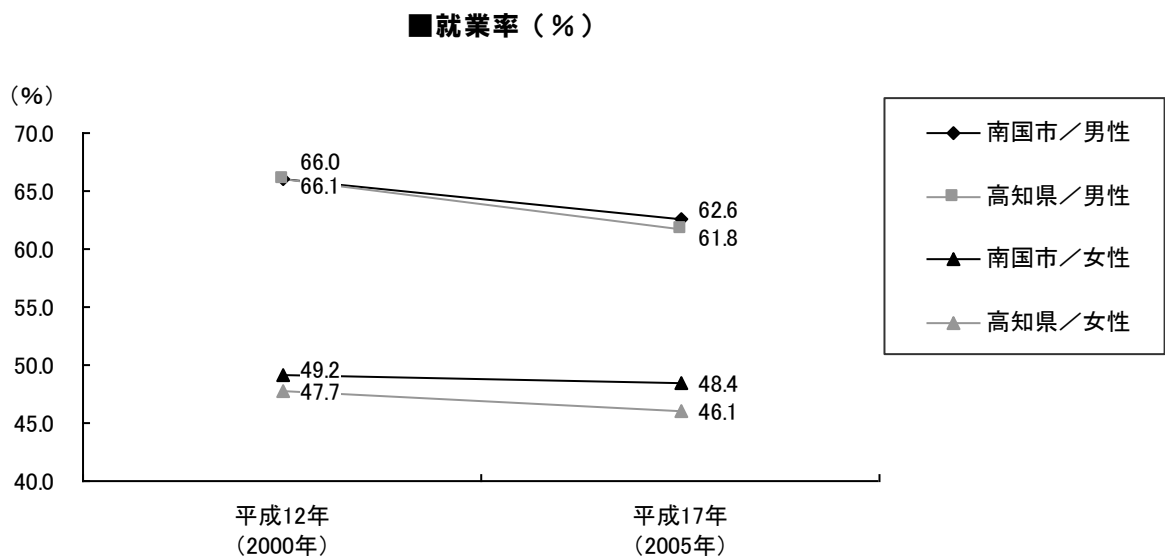
世帯の状況を、家族類型別割合の推移からみると、「ひとり親と子どもの世帯」「単身世帯」は増加傾向にあり、「夫婦と子ども世帯」「三世帯世帯」は減少傾向にあります。



資料：国勢調査

2. 就労状況

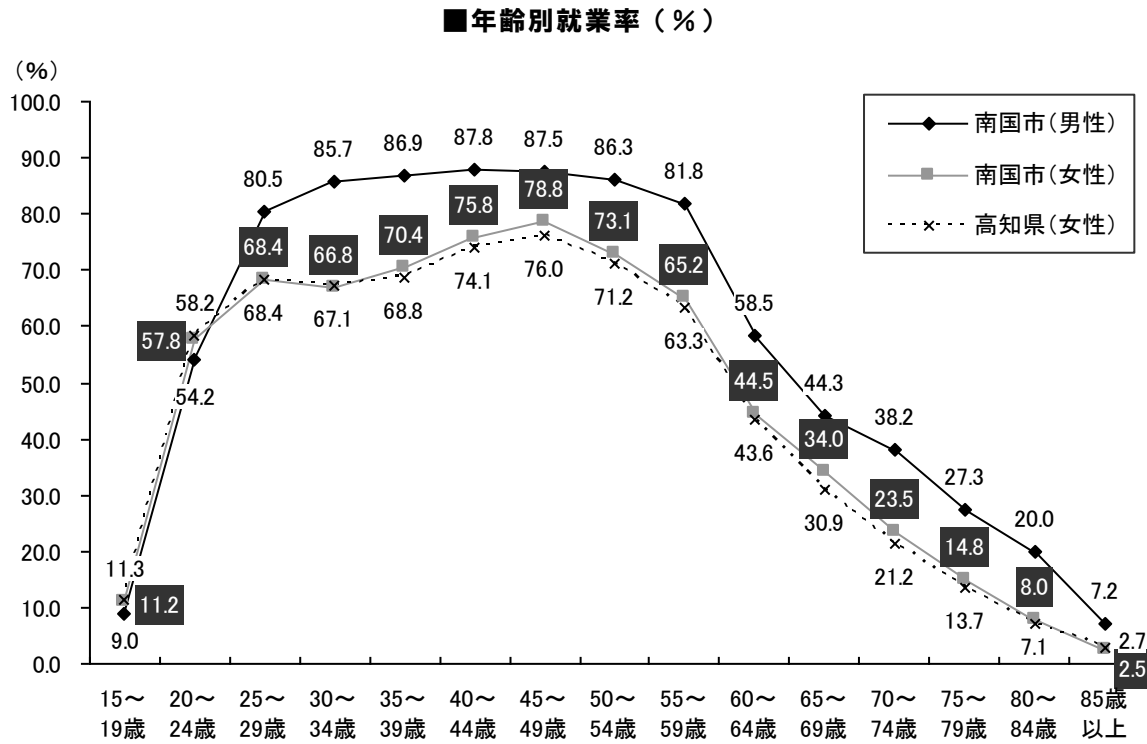
本市における就業率は、平成17年国勢調査では、男性が62.6%、女性が48.4%で、男性は高知県の平均とほぼ同様、女性は高知県の平均をやや上回って推移しています。



資料：国勢調査

3. 女性の年齢別就業率

本市における女性の就業率は、40歳代後半でピークをむかえています。25歳以上のいずれの年齢層も、平成12年に比べおおむね就業率の増加がみられ、女性の社会参加の進展がうかがえます。



■女性の年齢別就業率 (%)

		15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85歳以上
南国市	平成12年(2000年)	11.5	64.5	67.1	64.6	69.9	76.4	75.7	70.1	64.6	45.1	31.5	22.6	13.5	6.1	1.7
	平成17年(2005年)	11.2	57.8	68.4	66.8	70.4	75.8	78.8	73.1	65.2	44.5	34.0	23.5	14.8	8.0	2.5
高知県	平成17年(2005年)	11.3	58.2	68.4	67.1	68.8	74.1	76.0	71.2	63.3	43.6	30.9	21.2	13.7	7.1	2.7

資料：平成17年(2005年)国勢調査